

◇鈴木大介(すずき・だいすけ)

子どもや女性、若者の貧困問題をテーマに『最貧困女子』(幻冬舎)などを代表作とするルポライターだったが、2015年に脳梗塞を発症。その後は高次脳機能障害者としての自身取材した闘病記『脳が壊れた』『脳は回復する』(いずれも新潮社)や夫婦での障害受容を描いた『されど愛しきお妻様』(講談社)などを出版し、援助職全般向けの指南書『脳コワ』さん支援ガイド』(医学書院)にて日本医学ジャーナリスト協会賞大賞受賞。



◇いのうえさきこ

だじゃれと酒を愛する片付けられない漫画家。最新刊は高次脳機能障害のパートナーとの日々を描いた『私、なんで別れられないんだろ』(秋田書店)。

保護者会で講話をしてくださいました、はまな愛氏のおススメ

『発達系女子とモラハラ男  
傷つけ合うふたりの処方箋』  
(鈴木大介 著 漫画:いのうえさきこ)  
晶文社 定価:1,650円(本体1,500円)

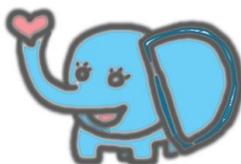
好きで一緒になったのに「ふたりが生きづらい」と思ったら読んでください

発達系女子のど真ん中を行く妻、御年41歳、子ども無し。働く意思もなく自発的に家事をするでもなく、テレビと猫とゲームにまみれて家から出ようともしないプチひきこもり。シングルインカムでワンオペ家事の夫は鬱憤蓄積、いつしか妻に叱責や暴言をぶつけるモラハラ男に。しかし夫が脳梗塞で倒れ「後天的発達障害」ともいえる高次脳機能障害になり関係性が激変。夫は妻の「不自由」や「苦手」を徹底的に考察し、家庭改革に乗り出す。相互理解の困難と苦しさの渦中にある発達系女子×定型男子のパートナーに贈る、読む処方箋。(出版社より)

長男は仕事で休みの日、自ら進んで、みかん農家の祖父母の手伝いをしています。自分で車を運転して、片道1時間半かけて、祖父母の家へ。少し前までは、有難迷惑なのは……と心配していました。が、重いものも楽々運べる頼もしい助っ人になりつつあるようです。しかも、手伝いに来てくれている近所さんにも、「お世話になりました、す！」と声を掛けたりするのでとか。自分で考えて動くことは難しく、機転も利きませんが、機転も利きませんが、一度も手伝わなかったことのない私より、よっぽど役に立っています。集中力は皆無ですが、全く疲れることのない無尽蔵の体力(垂)

ダンボクラブでは、発達障がいについて広く理解していただくための啓発活動を行っています。ご賛同いただける方の温かいご支援を募集しています。ボランティア活動にご興味のある方、ご寄付いただけます方は、下記までご連絡下さい。

お問い合わせ: [damboclub@gmail.com](mailto:damboclub@gmail.com)  
お振込口座: 伊予銀行 小栗支店 普通 1321818  
ゆうちょ記号 16170 番号 25583311  
ダンボクラブHP → <https://www.dunboclub.com/>



# ダンボ通信

☆第182号☆  
発行日:2024年11月

\*\*\*\*ダンボクラブについて\*\*\*\*

発達障がいがどのようなものか知っていますか？  
私たちは、そんな子どもたちを育てています。  
この広報は、ダンボクラブがどんな活動をしているのか知っていただくために作りました。



## ☆☆☆活動報告☆☆☆

### ★保護者会 10/26(土)★

『片付け苦手でも暮らしやすく！発達障害と片付けの関係』という演題で、はまな愛氏に講話をしていただきました。→詳細は次ページ

### ★成人当事者会「ワンピース」10/20(日)★

【前半】CYATH(サイアス)という就労継続支援B型事業所の方が来られました。サイアスとは、e スポーツイベント(MC や実況、裏方など)に関わりながら、パソコンの基本スキルや AI 生成、レーザー彫刻、パソコンの組立や動画編集などの知識・技術を学ぶことができる事業所です。利用時間や日数も、体調や体力に合わせて利用することができます。発達障害の方が興味ある分野の内容でした。

【後半】3つの分科会に分かれて、近況をもとに様々な話がありました。

#### A グループ

- JR 松山駅について 駅構内の飲食店などの情報、西口再開発についての意見等
- 野菜などの価格の高騰や高島屋地下の特売日情報
- スマホのセキュリティに関する話
- 来年度の活動の希望

#### B グループ

- 体調や普段の食生活
- 禁酒をして2年で15kg痩せた方のお話
- スマホのバグやエラーメッセージについて
- リニューアルした、JR 松山駅

#### C グループ

- グループホームなどでは、設備を破損してしまったときのために保険に入っておくと安心
- ご近所付き合いについて、最近地域活動も減ってきたため、近隣の人目を気にする必要も減ってきたのではないかなどなどの話

